

# この地獄をどうやって マシなものにするか

想田和弘 × 山本太郎  
(映画作家) (れいわ新選組代表)

新型コロナウイルスによる感染拡大が収まらず、予断を許さない状況が続いている。今後、我々の生活は一体どうなるのか。政府はどう対処してくれるのか。新作映画の公開で帰国中の想田和弘氏と、政党政首として独自の提言を行う山本太郎氏が、政府の危機管理、対応策を通して、この問題の本質に迫った。

山本 想田さんの新作映画『精神0』を拝見させていただきました。意図的に狙っているわけじゃないんでしょ。でも、ドキュメンタリーであそこまでヒヤヒヤさせられる作品ってなかなかない。高齢者だけで生活していくということには多くのリスクが伴うということを考えさせられましたね。

想田 ありがとうございます。その辺りもオブラートに包まずに見せていくことが大事なんだと思います。高齢になればなるほど、できなくなってしまうことも増えるのが現実です。

山本 山本医師夫妻のキャラクターが温かくて、とても素敵でしたね。本作は劇場公開日(五月二日)にインターネットで一斉配信されていますね。

想田 はい、苦肉の策ですよ。本来はもちろん映画館で観ていただきたいですからね。山本さんもずっと訴えていらつしやることですからね。本来ならば休業要請と補償はやつぱりセットで行われないと。

映画の世界でいえば、劇場は休館した間も家賃や人件費を払わないといけないわけですから。そもそもみんなカツカツでやっているんです。このままだと本当にバタバタ倒産しちゃうと思います。そしてコロナが去ったあとに誰も立っていない状態になってしまつたら、今度は僕らの発表する場がなくなるわけです。政府の対応を待ってられないので、劇場公開と並行して「仮設の映画館」をネット上に作って「精神0」を配信し、収益を劇場にも分配する仕組みを配給会社と一緒に作りました。コロナ禍を劇



『精神0』  
2008年に公開された映画『精神』。その主人公の一人である精神科医・山本昌知が、82歳で引退を決意し、妻・芳子と新たな生活を始める。第70回ベルリン国際映画祭フォーラム部門エキュメニカル審査員賞受賞。劇場公開と並行して「仮設の映画館」でデジタル配信。

場・配給・製作がみんなで生き残るための、緊急避難措置です。

## ずっとズレた王様みたいな感覚

山本 本来なら事業者や労働者をきちんと保護しなきゃいけないわけです。これは今だけのことじゃなくて、この先のこともあるわけですから当然のことなんです。それさえも十分になさずに、単に「外には出るな」としか言わない。理解し難いですけどね。ある意味で政府は、「そうした体力のないところは潰れてしまつていい」というような考え方をしているんじゃないかと。今すぐそこを手当てしないことには、結局、文化そのものも根絶やしにされてしまう状況なので、と危惧しています。

想田 政党政首として、具体的な提言をしてくださったのは本当にありがたいです。休んでもらうかには補償する。困った人や会社は政府が救済する。財源は国債で賄う。その姿勢を徹底させた提言だと思わんです。「安倍政権のやり方が唯一じゃないんだ」「こうすべきなんだ」ということを示された。それがすごく重要です。

残念ながら、安倍政権が補償を手厚く実行するとは到底思えないですけども、あの提言の中の一つや二つでも実現してくれば相当違うと思います。山本 私たちは現在二議席しかなくて、予算委員会やテレビ中継が入るところにも議席がありません。なので、今のところネットでの発信が限界という状況。非常に悔しいんですけどね。こうしたことをリアルタイムにテレビの電波に乗せられれば、より多くの

## れいわ新選組のコロナ緊急提言

「真水100兆円」で、徹底的にやる!

- ①消費税はゼロ%に
- ②1人あたり20万円の現金給付
- ③イベント自粛や飲食店、中小零細・個人事業主と労働者への損失補填
- ④社会保険料の免除
- ⑤水道、光熱費の免除
- ⑥家賃免除、生活保護の要件撤廃、公的住宅ストックの活用
- ⑦ローンなど債務の猶予、国による利息の補填
- ⑧全ての教育、授業料免除、奨学金返済は1年間猶予
- ⑨医療従事者などの手当
- ⑩生産者への支援・食料供給網の維持(就農支援等)
- ⑪医療体制の拡充と災害時への対応
- ⑫DV被害者への対応
- ⑬海外邦人への対応
- ⑭障害者関連施策の提言

人たちに伝えることができるんですけども。そこはとて歯がゆいんです。

想田 山本さんからご覧になって、安倍総理があれほど国民にお金を出したがないのって、なぜだと思われませんか?

山本 借金を増やしたくないというのと、たぶん「その言い分は卑しい」と思っているんじゃないでしょうか。つまり「外に出るな、自粛しろ」ということに対して、「それなら休業補償とセットで」という考え方については、「なんでも欲しがりがつて、卑しい」というように捉えているんじゃないかと思っています。

想田 卑しい、ですか。

山本 彼はきつと一度も生活に困ったことがないでしょうし。

想田 そうですね。

山本 たかだか二〜三カ月、家の中にこもったとしても食べていけるでしょう。ここまで政府がドケチなのは、国民とそのくらいズレた感覚があるんじゃないんですかね。

想田 まさかそうじゃないだろうと思いつつも、でもなんだかそういう感じもしますね。だってあまりにもピン트가ズレているから。

山本 ずっとズレた王様みたいな感覚で運営しているのかなって。

想田 大不評だった「お肉券」「お魚券」に代わって、旅行と飲食に使える「Go to Travel」「Go to Eat」と

名付けたクーポン券が出てきたときにも、言葉を失いました。

山本 本当です。

想田 すごく不思議でした。旅行会社や飲食店に支援が必要なのは当然ですよ。だけど、それはまず今日、明日を乗り越えるための施策が必要なんです。コロナが終わったあとの政策を、なぜ今、出してきたんでしょうか。だって、今、大勢の人々が直面しているのは、明日の家賃や人件費が払えないってことじゃないですか。その問題を解決することなしに、コロナ後の支援策なんか出してもらっても、その前に潰れちゃうよって話です。そこに対する想像力が完全に欠落しているんじゃないかと思えない。そう考えると、山本さんがおっしゃったような、おぼっちゃんすぎてわかんないんだらうっていう意味はすごく理解できます。

山本 仮にも総理大臣ですからね。ところで想田さん、日本にいらつしやる前はニューヨークにいらつしやつたんですね。

想田 はい。僕は、米国の入国制限が行われる直前に日本に着きました。これが入国制限が始まるところでした。例えば、入国制限後の帰国者には二週間の自己隔離が要請されたわけですけど、空港から公共交通機関には乗っちゃいけない。だから、例えば成田に着いても、そこからどこかへ移動するには誰かに迎えに来てもらうレンタカーで自分で行く

つていう話なんですよね。

で、僕であれば普通はまず実家に帰るわけですが、そこには高齢の両親がいる。もし僕ら帰国者がハイリスクだというなら、一番接してはいけない人たちがやらないですか。ですから、自宅待機しろって言われたってできないわけでは。

山本 そうなりますよね。

想田 じゃあどうするかといったら、やっぱりホテルとかに滞在するしかないじゃないですか。でも、経済的にそうできない人、すごくいっぱいいると思います。

つまり規則を破らざるを得ない人、たぶんいっぱいいるんですよ。そうなるとそれは感染の拡大リスクを高めるっていうことです。帰国者に自己責任で対応を求めることは、帰国者の人権を損なうだけじゃなくて、社会にとってもすごくまずい。ですから、例えば隔離するなら少なくともホテルや宿泊所を政府が用意し、そこまでの交通手段も用意してくれるなら、みなさん喜んで隔離されると思うんです。

山本 その通りです。

想田 しかし、政府はそれを全然用意しないから、みんな各自で自費で対策するしかない。「二週間外へ出ないでください」って、そんな普通の人にはできないですよ。仕事あるし。お子さんとかいたら、どうすればいいんでしょうね。だから、もうこれ本当にね、おかしいですから。

それにすでに市中感染が広がっていたわけだから、

想田 実は僕は、アメリカにはできないだろうなと思っていたんですよ。というのは、とくに共和党の「小さな政府」イデオロギーってめちゃくちゃ強くて、給付金を出したり、困ったビジネスを助ける補償を出したりするのは社会主義<sup>ソシアリズム</sup>悪<sup>バッド</sup>だ<sup>バッド</sup>っていう意識がものすごく強い。ところがそのアメリカで、わずかに○日ほどで超党派でポンとGDPの○パーセントにも達する二〇〇兆円規模の経済対策を打ち出したのにはびっくりしたんです。

山本 すばらしい決断でしたもんね。安倍さんだけのことじゃなくて、その周辺にいる人たちの貴族的な考え方のみならず、おそらく財務省自体も給付金を出したがるに体質があると思うんです。これ以上、借金を増やしたらいけないという考え方で凝り固まっていますから。今が本当の緊急時だということをおわかっていないと思わざるを得ないです。

想田 今出さなかったら、いつ出すんだろうっていうくらいに緊急事態ですからね。下手すると、この混乱が一年、二年続くかもしれないという予測もあ



コロナの前から緊急事態だったという山本太郎氏。

帰国者だけじゃなくて、実はみんなが「自分は感染しているかもしれない」という前提で行動しなくちゃいけないフェーズに、もう入っていたと思うんです。にもかかわらず、帰国者だけの危険性が強調されると、逆に危ないなあとも思っていました。

山本 自分は大丈夫だっと思って思っている無症状の人、きつといますもんね。

想田 ええ。つまり安倍政権のやり方は三重にも三重にもおかしいし、それがたぶん今回のコロナ対策では一貫している特徴です。後に撤回したみたいですが、風俗業やナイトクラブの方とかを休業補償から外すと言っていましたよね。それは人権的にももちろんNGだけど、それだけじゃなくて、感染拡大のリスクを避けるという意味でも悪手なんです。だってみんな休業補償がなかったら働きますもん。食べるために必要なんだから。でもそういう視点が全然ない。

### 社会の規範や価値観が変わるとき

山本 今回の新型コロナウイルスへの政府対応には、例えば「自分にあまりにも冷たすぎるじゃないか」というような、ある意味で棄民政策というか見殺し政策みたいなことを感じて、やっぱりおかしいと思っている人が増えているような実感がありません。命の選別をさせないように国が率先してやるべきことは、通貨発行権を持っているわけだから、こ

ります。欧米の政府の対応を見ると、僕はもしかしたら、これがきっかけになって「小さな政府イデオロギー」が駆逐されていくんじゃないかなという気さえしています。つまり社会の規範や価値観が一八〇度変わる「パラダイムシフト」が起きるような状態かも、と思うんです。

山本 多くの命が失われたり、多くの生活が壊れたりしないと気づけないということもありますが、そうなる前になんとかしなくちゃいけない。逆になんか気づかないこともありますが、その前に気づかない可能性もあります。3・11のときにも、僕は「これでもうみんな目が覚めて原発はもう造るまい、稼働させまい」ってなるだろう」と思っていたら、そうでもないですからね。

山本 原発のときも、見えない、臭わないっていうようなシチュエーションの中で、自分たちでしっかりと声を上げていかなきゃならなかった。予防原則に立った政策を本気で勝ち取りにいかなくちゃいけない場面だったんです。しかし、それを勝ち取ることは難しかったってことですね。また、以前の「ただちに影響がない」という世界から今回の「ただちに影響があり得る」というところにステージが進んで、これはある意味「追試」ですよ。そう感じています。

想田 追試、なるほど。

山本 日本中でいきなり学校が休校になったじゃないですか。そのとき、原発の関連でお付き合いがあ



安倍政権のやり方に疑問を投げかける想田和弘氏。

した危機的な状況のときにバンバン金を出して、実際に人々の生活を安定させることと安心していただくことが大事です。みんながこの先、経済がクラッシュするかもしれないというマインドにならないような形を作っていくのが国家運営というか経済運営だと思えます。

想田 山本さんが提言している一〇〇兆円の真水を出すという発想は、これは今、欧米でもスタンダードなやり方ですよ。

山本 そうですね。世界中でやっていますから。国債発行は抑制的にやっていかなきゃダメだというルールがあったとしても、これは今、必要ですから。あとは予算措置を講ずるといった政治的な決断だけ。

これに際して、法律改正しなきゃいけないものはないと思うんです。例えば、社会保険料タダにしたとしても、現行の法律のままではできるものもできないものがありますが、基本的には政治家が宣言することによって、そんな改正はさっさとやってしまえばいいわけで、要は予算をこれだけつけるからやっていくぞという宣言、その後の行動が必要だと思う

つた福島県の学校の先生から連絡があったんです。「今、報道で初めて知ったんですけど、安倍さんが学校を休校にするって言うんですけど、これ本気なんですか？」と私に聞いてきたんです。それで「総理が言ったってことはそうなんじゃないか」と答えた。「いや、ムチャクチャだ。もうこんなの急すぎる」みたいな話になって。

その中で「原発事故で学べなかった私たちが、次にこのコロナで学べるかどうかテストされているよです」って話をしたら、「前回できなかったのに、今回も赤点に決まっているじゃないですか」と。原発事故があった福島県で生活されている方から、前も赤点だったのに今回も赤点に決まっているだろうというツツコミをいただいた。

想田 残念ながらそうかもしれない。

山本 絶対にそうならないようにしなきゃいけない。でもやはりこの国を運営する権利っていうものを与える、ジャッジするものが選挙なので、ある意味、有権者の方々がマヌケな政治家を選ばないということを真剣に考えられるかどうかということが一番大きいと思いますね。

想田 それに尽きますね。安倍さんらが今でも権力の座にあるのは、まさに我々が選り続けているから。何度も何度も、何度も何度も現政権を退場させる機会があったわけじゃないですか。国政選挙だけでも、すでに何回もありましたよね。その度に、自民党と公明党の連立政権が信任されるような形で十



分な議席を獲得、あるいは増やしてきたわけで。結局は選挙で我々主権者がどういう選択をするのかということが、問われている。そこには権力の源泉はないわけですから。私たちは「安倍政権でいいんだ」という選択をしてきたわけです。消極的選択だとしても実際にしてきた。結局はそこが変わらないとどうにもならない。

**山本** 希望はあると思っています。要は五〇パーセントの判断をしなかった有権者もいるわけですから判断しなかったその五〇パーセントの人たちは、目の前の生活で精一杯だったのかもしれない。でも、今回の緊急時にこれほどまでに政府が冷たいのを感じてもらえたならば、今度は投票所に行ってくれるかもしれない。本来は、一刻も早く救済施策が打たれなきゃダメなんです。しつかりと、今、政治家が何を考えているのか、何をしているのかを多くの方々にウオッチしていただきたいです。

### 一〇〇兆円刷っても国は傾かない

**山本** 以前、想田さんが『牡蠣工場』を撮られたじゃないですか。私、ちょうど『牡蠣工場』を観る前に国会で外国人実習生のことを質問したことがあったんです。そのあとに映画を観て、「これはやばいなあ」と感じるほどすごく大きな警鐘を鳴らしてもらった気分になったんです。国会でも、外国人労働者の問題を積極的に取り上げるようになってきました

が、彼らも日本国内にいられない状況になってきたということですね。生産に大きく穴が空いてしまったところもなんとかしなければと思っています。

我々は、一人あたり二〇万円配れという話をしてるんですね。一〇万円じゃ少ない。要はこの国に暮らす人々に対して。一世帯じゃもちろんダメで、一人ひとりに二〇万円。一度ではなくコンスタントにかつ私が言っているのは、日本国民という枠組みじゃダメだってことなんです。収入が途絶えた、さらに生活必需品も買えないということが極限まできたとしたら、あつてはなりません。誰しも生きるために他人から奪ってしまいます。そうした手当てをしていかなければ治安も悪くなってしまふ。ウイルスだけでも大変なのに、治安まで悪くなったらもう地獄ですよ。そうならないように、まずみなさんに落ち着いていただいて、心に余裕を持っていたきたいという意味の一人あたり二〇万円の給付案なんです。

これはワンショットでたぶん総額で二五兆円くらいかかるんです。それはあくまでも国民の数ベースですけれど、「二五兆円も金刷ってみんなに配るなんてとんでもない。インフレになるじゃないか！」みたいな話もよく聞くんですが、仮に一人二〇万円配ったとしてもインフレは〇・〇五ポイントくらいしか押し上がらないという日経NEEDSを使った試算もあります。もらったお金を全く使わない人もいるし、ちょっとしか使わない人もいる。もちろん全

部使う人もいるでしょうけれども、そういうことを鑑みたときに物価の押し上げはそれくらいに留まるだろうと考えるならば、一〇〇兆円刷って国が傾くなんて話にはならないんです。

**想田** しかもそもそもデフレです。コロナの問題が起きていなくても、やった方がいいような政策です。こういう事態になったからには、ますますそれをやるべきだし、やらないと大変だし、やっても大丈夫なんだから。

**山本** そう。コロナ騒動の前から緊急事態だったことなんです。おっしゃる通り、二〇年間続くデフレ、それだけじゃなくて消費税も上げて結局GDPマイナス七・一パーセント、要は年率で考えたら四〇兆円くらいのお金を、消費税の増税だけでみなさんから奪いました。すでに緊急事態であつたことを考えるならば、このコロナがなかったとしても大規模な財政支出は必要なことだつたと思います。

**想田** そうした考え方は、野党の間では共有されてきていますか？ 例えば、今、山本さんが提言されているようなことに対して、他の野党はどの程度意識を共有されていますか？

**山本** 休めというならお金を出せという「自粛と給付はセット」というような話に関しては、おそろしく共有できていると思います。けれども、じゃあどれくらい給付するのかわからない部分に関しては、たぶんばらつきがあると思います。一〇〇兆円という額はちょっと怖くて言えないというか、現実的だと思わ